

御奉行様 (五卷)

帝キネ小阪映畫

脚色者 樹本 清氏  
監督者 長尾 史 録氏  
撮影者 保田 庸氏

主要役割

奉行平賀民部 嵐 璃 徳氏  
代官柏木角馬 中村 翫 曉氏  
同妻おしか 椿 恵 美子嬢  
同娘 みどり嬢  
紙屑屋茂作 嵐 笑 三氏

妻おたか 衣笠みどり嬢  
一筋筋。或國の代官柏木角馬はその村の人民に  
重税を課し美しき女を見れば己が慰みものに  
て村人を苦しめ極暴の極を盡して居た。村人の  
怨恨は遂に奉行の知る所となつた。奉行平賀民  
部は事の實を探索事となり申木の隠密は早く  
もこれを知つて注進した。柏木は事知れば身  
の破滅と大いに驚き要所々に張番を設け奉行  
來るを待受ける事になつたが新任の奉行の顔  
を見知る者なく只頼に徳のある事が何よりの證據  
であつた。その時屋屋茂作は空腹の爲め餅を一  
片盗んだので代官所へ引立てられたが彼の頼に  
志があつたので奉行と間違へられた代官邸に優遇  
された。所が本物の民部は巧みに徳を隠し代官  
の邸に入り込み偽物の奉行を使ひ美車柏木の罪  
悪を被さし民の幸福を計つた。  
筋は見ね透して居るが、受けるのする映畫で  
ある。筋そのものが充分喜劇味を持つて居るの  
であるから更に俳優に誇張した演技をさせる  
事を選じた方がよいと思ふ。端役の武士の態さ  
らしい滑稽な仕草等は馬鹿々々しさを感じた。  
脚色も監督も最後までたれさせない點で無難で  
ある。笑三氏の茂作は好く演じて居る餘り奥  
芝居をしないのが何よりである。璃徳氏の奉行  
も貫目と品位が備つて居て立派、端役ではある  
かさすが大きい所がある。  
(四月十日 神戸二葉館) 山本綾葉